第６学年図画工作科学習指導案

対　象　青森市立長島小学校　６年１組　１８名
指導者　中川　史子（Ｔ１）後藤　香織（Ｔ２）
ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ　一般財団法人棟方志功記念館
学芸員　宮野　春香

１　題材名　「ありがとう 志功さん！ 伝えよう 私たちの思いを～自らの生き方をひらく鑑賞活動～」

２　題材について

（１）学習指導要領との関連

本題材は、学習指導要領の次の目標・内容に基づいて設定したものである。

第５学年及び第６学年の目標と内容

（１）　対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに，材料や用具を活用し，表し方などを工夫して，創造的につくったり表したりすることができるようにする。

（２）　造形的なよさや美しさ，表したいこと，表し方などについて考え，創造的に発想や構想をしたり，親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

（３）　主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み，つくりだす喜びを味わうとともに，形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

内容

Ｂ　鑑賞

（１）　鑑賞の活動を通して，次の事項を身に付けることできるよう指導する。

ア　親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して，自分たちの作品，我が国や諸外国の親しみのある美術作品，生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深めること。

［共通事項］

（１）「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　自分の感覚や行為を通して，形や色などの造形的な特徴を理解すること。

イ　形や色などの造形的な特徴を基に，自分のイメージをもつこと。

（２）指導にあたって

本校では第６学年において、毎年、総合的な学習の時間での「再発見青森」において、本校出身の版画家棟方志功画伯（以下敬称略）やねぶた祭りなど、郷土の芸術文化について学んできている。特に棟方については、校内にある作品や手紙に、比較的容易に触れられる環境にあり、作品を見たり話

を聞いたりする体験を通して、児童は高い関心を寄せている。本校創立百周年の時に、卒業生である棟方が本校に足を運んで揮毫し、贈った「汝我志磨」には次のような言葉が添えられている。「『汝』と『我』とは、現在・過去・未来の『あなた』と『わたくし』のこと。多くの先輩諸賢が、お互いを『磨』きあった長島小学校です。これから何十年、何百年と続く長島小学校に学ぶどの子もどの子も、自分の『志』が得られるよう眼を輝かせていくと思います。『汝我志磨』それは、その時々のわたくしたちの姿であり、長島小永遠の命でもあり魂でもあります。」

本題材は「鑑賞」の資質・能力の育成を主軸に据えて構成した。 本校の先輩である棟方の作品の根底にある「青森ねぶた」の鮮やかな原色の色彩と出会い、独自の表現方法（裏彩色・躅飛々沫隈暈描法）に見られる色の鮮やかさや柔らかな美しさ、作者の情熱（祈りや願い）を丁寧に読み解く「鑑賞」の過程が、本単元の主軸である。単に棟方の技法を模倣して作品をつくる（表現する）ことを目的とせず、表現活動を「鑑賞をより主体的に深めるための方法」として位置付け、鑑賞することで得た気付きを自己の表現へと具現化する「表現と鑑賞を相互に関連付けた学習活動」をねらいとする。

そこで本時では、棟方に詳しい棟方志功記念館の学芸員に専門的なアドバイスをもらいながら、「鑑賞」の仕方を学ぶことから学習を始める。棟方の作品「汝我志磨」と同じように、後輩である児童が卒業を前に「後輩へ託すモチーフや言葉」を選び、棟方の表現方法をヒントにしながら「自分の思いを伝えるために、書・裏彩色・躅飛々沫隈暈描法のうちどれを一番やってみたいか」「裏彩色の絵の具を使ってどのように彩色すれば、棟方作品に見られるような効果に近づき、表現することができるか」などと試行錯誤するプロセスは、棟方が使った表現方法の効果を自らの内面に取り込み、作者の制作意図や精神を追体験・深化していく「鑑賞活動」そのものであると考える。版画に彩色したり、筆を使って「にじみ・ぼかし・かすれ」を表現したりして作品を「完成」させることで、鑑賞によって育まれた感性を自らの表現へと深めていくと思われる。

さらに学習の終わりでは、完成した作品を通して互いの思いを読み解き合う鑑賞や、校内特設ギャラリーでの展示・下級生への引き継ぎといった「未来や社会へつなげる鑑賞の場」を設定する。これにより、一連の活動を通して郷土を愛好する態度を養い、自らの見方や感じ方を生涯にわたって深めていく「鑑賞」の学びの具現化を図っていきたい。

3　題材の目標

・棟方の作品の表し方の特徴に気付き、それらの表現方法を生かして、後輩への自分の思いを工夫して表す。（知識及び技能）
・棟方の作品の造形的なよさや美しさ、表し方の工夫、作者の意図や思いを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めるとともに、それを基に自分の思いをどのように表すかについて考える。（思考力、判断力、表現力等）
・棟方が作品に込めた思いや作品のよさを味わい、自分たちも学校の伝統を引き継ごうという意識をもちながら主体的に作品に関わろうとする。（学びに向かう力、人間性等）

4　研究内容との関わり

① 造形的な見方・考え方を引き出す「出会い」の工夫【発見】

導入時において、「棟方作品アートかるた」を用い、作品の全体と部分をじっくりと鑑賞する機会を作る。「モチーフ」「感じとれるもの」「イメージ」などの造形要素に焦点を当てて、読み上げることにより、自分とは別の視点から鑑賞する方法を学習する。

次に、２つの表現方法（裏彩色・躅飛々沫隈暈描法）を学ぶ段階において、「志功さんになりきってこの方法を使うことによって、どんな発見ができたのか」というそれぞれの感じ方が、作品鑑賞の深まりとなる。

また、「志功さんが考えた表現方法を自分でもやってみることができた」という自信へと繋がり、次の段階として、「棟方から引き継いだ思いを自分の表現に活かす」活動に意欲をもたせる。

② 創る喜びを支える試行錯誤の過程の工夫【試行】

子どもたちが自らの思いに最適な表現を選択できるよう、３つの技法（書・版画：裏彩色・絵：躅飛々沫隈暈描法）を十分に試させるようにする。 試行の途中には、伝えたい言葉や思いと表現方法の効果のつながりを吟味し合う交流の場を設定する。また、墨や彩色の予期せぬにじみやしぶきを「志功さんの表現世界」と関連付けて肯定的に価値付けることで、失敗を恐れずに対象と対話しながら、納得のいく表現へ試行錯誤する活動を支えていく。

③ 伝える喜びを広げる鑑賞の工夫【対話】

完成した作品の鑑賞において、作品に込められた思いをあえて伏せ、友達の作品の表現方法や造形的な特徴から、後輩へ託した思いを読み解き合う鑑賞の場を設定する。お互いの表現の意図や工夫を認め合う対話の姿を、棟方の『汝我志磨』の精神と重ね合わせて教師が価値付けることで、表現が他者に伝わる喜びを実感させる。さらに、完成した作品を実際に校内展示し、後輩へ引き継ぎ、未来へとつながることに思いを馳せられるようにすることで、相手意識・目的意識を伴った「伝える喜び」を実生活へと広げられるようにする。

④ 感性を未来・社会へつなげる場の工夫【接続】

授業内で生み出された表現と鑑賞の成果を、校内特設ギャラリーでの展示や、総合的な学習の時間の発表と合わせた後輩への「実生活での発信の場」とする。棟方が母校に思いを遺したように、自らも表現を通して学校や後輩（社会）に働きかける経験を通して、造形活動の社会的価値を実感させる。さらに、後輩へ託した思いを「未来の自分自身へのエール」として捉え直させることで、図画工作科で培った感性をこれからの生き方や自己実現へとつなげていけるようにする。

５　指導計画と評価規準

（１）題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
棟方の書・裏彩色・躅飛々沫隈暈描法の表現の効果を知り、自分の思いに合わせた表現方法を選んで、工夫して表している。	後輩への思いをどのように表すかについて構想を練り、画面の構成や効果的な表し方を考え、棟方作品に対する自分なりの見方や感じ方を深めている。	棟方の作品や生き方に触れながら、自分たちも学校の伝統を引き継ぎ、後輩へ思いを届けようという意識をもって主体的に取り組もうとしている。

（２）指導計画（全９時間）

時	ねらい	主な学習活動	準備物	評価
1	本校にある棟方作品を見て、感想をもつ。	・棟方について知っていることをまとめる。 ・総合的な学習の時間で棟方が本校に寄せた書「汝我志磨」の意味を再確認し、感想をもつ。	・ワークシート	棟方について知っていることや作品を見ての感想をもっている。 【知識・技能】

2	志功作品の様々な技法（書・板画・倭画・油絵）を知り、鑑賞することを通して、棟方作品から造形的なよさ、美しさを感じ取る。	・ゲストティーチャーを招いての授業① ・棟方の生涯についての話を聞く。 ・棟方志功アートかるたを用いた鑑賞を行い、様々な鑑賞の視点を理解する。 ・青森県庁にある作品を鑑賞しに行き、作品の大きさやよさに触れる。	・アートかるた ・ワークシート ・Chromebook	棟方作品の技法について知り、造形的な特徴を理解している。 【知識・技能】 棟方の表現方法を知り、書に込められた思いを自分なりに感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 【思考・判断・表現】
3	棟方が色彩について影響を受けた「青森ねぶた」や棟方の書を鑑賞することを通していろいろな種類の表現方法を知り、棟方への思いを自分なりに感じ、考える。	・青森市文化観光交流施設「ワ・ラッセ」でねぶたを鑑賞し、色彩の鮮やかさや迫力を感じ取る。 ・ねぶた制作小屋「ラッセランド」でねぶたの制作現場を見ることにより、和紙に墨や顔料で色付けをする方法を知る。 ・東奥日報新町ビルに飾られた棟方の書を鑑賞する。	・ワークシート	棟方作品の技法について知り、造形的な特徴を理解している。 【知識・技能】 棟方の表現方法を知り、書に込められた思いを自分なりに感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 【思考・判断・表現】
4	「裏彩色」を体験することを通して、色彩の効果、よさ、美しさ、表し方の工夫、作者の思いを自分なりに感じ、考える。	・ゲストティーチャーを招いての授業② ・３つの表現技法（書・裏彩色・躔飛々沫隈暈描法）の作品を知る。 ・実際に「裏彩色」を体験する。	・ワークシート ・半紙（サンプル作品の版画を刷っておいたもの） ・水彩絵の具 ・岩絵の具（顔彩） ・毛筆	裏彩色の特徴に気づくことができる。また、作者の思いを自分なりに感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 【思考・判断・表現】
5	「躔飛々沫隈暈描法」を体験することを通して、色彩の効果、よさ、美しさ、表し方の工夫、作者の思いを自分なりに感じ、考える。	・ゲストティーチャーを招いての授業③ ・実際に「躔飛々沫隈暈描法」を体験する。	・ワークシート ・画仙紙 ・顔彩 ・墨汁 ・毛筆	躔飛々沫隈暈描法の特徴に気づくことができる。また、作者の思いを自分なりに感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。 【思考・判断・表現】

6	伝えたい思いを書・版画・絵から選び、志功さんから学んだ表現方法の特徴を生かした作品の計画を立てる（ラフ画等）。	・ワークシートに自分で描きたい作品の計画を立てる（ラフ画等）ことができる。 ・裏彩色（うらざいしき）のための版画を作る。	・計画用ワークシート ・作品と同じ大きさの紙	伝えたい思いと、表現方法を結び付け、表し方を工夫して考えている。 【知識・技能】 棟方の独特な表現方法を追体験することを通して、作者の情熱や制作意図を自分なりに感じ取り、作品の見方や感じ方を深めている。 【思考・判断・表現】
7（本時）	伝えたい思いを志功さんから学んだ表現方法の特徴や効果を生かし、工夫して表す。	・ゲストティーチャーを招いての授業④ ・志功さんから学んだ表現方法の特徴を生かし、表す。 ・友達の作品を見て、参考にする。	・前時までの参考作品 ・計画用ワークシート ・画仙紙 ・顔彩 ・墨汁 ・毛筆	伝えたい思いと、表現方法を結び付け、表し方を工夫して考えている。 【知識・技能】 棟方の独特な表現方法を追体験することを通して、作者の情熱や制作意図を自分なりに感じ取り、作品の見方や感じ方を深めている。 【思考・判断・表現】
8・9	学級内で対話をしながら鑑賞をすることができる。 後輩や保護者への発表の仕方について計画を立てる。	・題名を伏せて、作品からどんな気持ちが感じ取れるか、対話をしながら鑑賞をする。 ・展示方法や発表の方法について計画を立てる。	・作品 ・ワークシート ・Chromebook	友達と対話をしながら鑑賞し、自分とは異なる友達の感じ方を知り、見方や感じ方を広げ、深めている。 【思考・判断・表現】

6　本時の学習

（1）ねらい

棟方の作品から学んだ表現の特徴や表現方法の効果を生かして、後輩へ伝えたい思いを工夫して表すことができる。

（2）研究内容に関わる本時の工夫

本時では、本大会の４つの授業づくりの視点のうち、「②創る喜びを支える試行錯誤の過程の工夫」に重点を置いた授業にしたい。

本番の紙にいきなり描くのはハードルが高く、失敗を恐れて萎縮してしまうと棟方作品のような勢いを出すことが難しい。まずは、前時までに表現方法そのものの面白さを味わう「試行」の場を作っておき、本時も志功さんから学んだ表現方法を試す場を作っておくようにしたい。

また本時では、試行錯誤の途中で友達の作品を見たり、対話したりできる時間を意図的に確保したい。棟方が、「きれいな形にこだわるのではなく、心の中から飛び出すような気持ちを大切に書かなければならない」と、書について語っていたように、「気持ちを大切に」思い切り挑んでいる線や表現を見つけ、それを「志功さんらしい表現」に変える言葉かけを日頃より価値づけておくようにする。例えば、かすれのないきれいな形を目指すのではなく、墨を飛ばしすぎた、にじんで文字が潰れてしまった、はみ出した…というような、子どもが「制作途中の部分的な失敗」にこだわらないよう、「表したい気持ち」が、勢いやかすれ、はみ出しによって全体的な形に表れていれば、それが味やよさであることを価値付けておきたいと考える。

（3）展　開（7／9）

主な学習活動　・予想される児童の反応	○留意点　□手立て　※評価
1　前時までの学習を想起する。 ・筆で勢いよく文字を書いたら気持ちよかった。 ・裏彩色は思ったより簡単にできた。 ・顔彩は色が鮮やかで綺麗だった。	○掲示を参考にこれまでの学習を簡単に振り返る。 ○志功さんから学んだ表現方法 ①「書…文字のデザイン」 ②「板画の技法：裏彩色…にじみ・ぼかし・彩り」 ③「倭画の技法：躍飛々沫隈暈描法…しぶき・にじみ・ぼかし」 をおさえ、体験した技法を使って作品を制作することを確認する。
2　学習のめあてを確認する。 志功さんから学んだ表現方法を活かして、「汝我志磨ギャラリー」にかざる作品を作ろう。 ・ぼくは「○○」という字を勢いよく書いてみたい。 ・私は裏彩色で「希望」という字を目立たせてみたい。 ・校庭の様子を絵に表したい。	○棟方の作品の写真やこれまでの学習で学んだ表現方法の作品を展示し、ヒントにできるようにする。 ○色の試しや線の試しができるスペースを用意する。 ※伝えたい思いと、表現方法の効果を結び付け、表し方を考えている。 （観察・ワークシート・作品）【知識・理解】
3　これまで学んだ表現方法を使って、表す。 ・違う紙を使ってみたい。 ・違う色の組み合わせを試してみたい。 ・もうこれで完成、これでいい。 ・友達のぼかしがよかったから、取り入れてみたい。 ・字を書いていて失敗した部分があったけど、友達から「かすれがいい。」と言われてうれしかった。 ・志功さんと同じように勢いよく書けた。 ・志功さんみたいな明るい色が出せた。	□Ｔ１、Ｔ２、ゲストティーチャーで見回りながら、筆が進まない児童にアドバイスする。 ※棟方の独特な表現方法を追体験することを通して、作者の思いや制作意図を自分なりに感じ取り、作品の見方や感じ方を深めている。（観察・作品・ワークシートの記述）【思考・判断・表現】 □選択した表現方法でうまくまとまらない児童には、別の表現方法も入れてよいことを伝える。 ○ワークシートに振り返りを記入させる。

4　学習の振り返りをする。 ・○○さんの作品が志功さんの作品に似ていて、志功さんに近づけたようでうれしい。 ・後輩への思いを気持ちを込めて描くことができた。 ・イメージした通りに色を付けられた。 ・早く「汝我志磨（ながしま）ギャラリー」に飾りたいなあ。 5　ゲストティーチャーの話を聞く。	○完成した作品の鑑賞を行うことを告げ、期待をもたせて終わる。

【参考資料】

①書：「創学百年記念頌 汝我志磨（ながしま）」（1972 年　青森市立長島小学校蔵）



②版画：裏彩色（うらざいしき）「門世の柵（安於母利妃の柵）」（1968 年　棟方志功記念館蔵）



③倭画：躅飛々沫隈暈描法「丸紋百花譜（部分）」（1944 年　棟方志功記念館蔵）

